

## 平成30年度小諸市公民館基本方針

— 生きがいづくり・地域づくりのお手伝い —

### 子どもたちの未来への贈り物



全国各地と同様に小諸市でも、少子高齢化と人口減少が進むに伴い、人間関係の希薄化や担い手不足は深刻さを増し、福祉や教育・環境・防災・伝統行事・住民自治等において様々な課題が生じています。

このような状況において、人々がつながり、生きがいをもって住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、教育や福祉・防災等を支える事業への支援と、これからの地域や暮らしのあり方について、主体的に学び、考え、判断し他者と共に改善に取り組むなどの住民による地域づくりに寄与することが小諸市公民館の重要な役目であると考えます。

そこで、生きがいづくりと地域づくりに関わる学習と実践への支援を今年度も引き続き基本方針とします。

①共に支え合う地域コミュニティづくりをめざし、生活課題・地域課題に関する学習と実践を支援

教育や福祉や防災などの課題に対し、住民の主体的な学習の機会を支館・分館事業の中にも設けていただけるような支援に努めたいと思います。

②多様な市民ニーズに応え、生きがいづくりにつながる学習と実践を支援

公民館での学習を通して、互いにつながり趣味・教養を高めたり、交流を深め自主サークルに発展させたりすることにより生きがいづくりが進められるよう支援します。

公民館での学習の成果が、目に見える形となるには時間を要するかもしれませんが、住民の主体性や地域コミュニティにおいて確実に変化が生じると思っています。

「人口減少や少子高齢化による問題」について、うちの地域ではどんな問題があるのか、起こってくるのかなど、普段感じていることをみんなでお話し合う。そして、それら

に対して行政頼みではなく自分たちができることを見つけ出していく。そんな学習が県内外各地の公民館で盛んに行われてきています。

このような取組みの中で、住民の主体性が強まり地域が変わっていくのではないのでしょうか。そして、住民としてのあり方や意識が子どもたちの未来への大きな贈り物となると思うのです。

今、何もしなくても今日の生活に困らないし何も変わらないかもしれないし。しかし10年後20年後には、するとしないとは大きな差となって表れてくるのではないのでしょうか。子どもたちが将来も安全で安心して希望を持って暮らしていきけるような地域であり続けることは誰もが願うところだと思います。

地域づくりのための学習を進めるお手伝いを小諸市公民館にさせていただきますと考えております。

小諸市公民館長 松本文一

## 平成30年度

### 公民館報編集委員の紹介

「公民館報」は、昭和24年に第1号が発行されてから毎月発行しています。この公民館報を作っているのが「館報編集委員」です。各支館から1名ずつ（中央支館は2名）推薦され、毎月2回、原稿校正や次号の検討などを行っています。

また、支館・分館の行事へ取材にお伺いし、記事を執筆します。

記事にすることで、市民の皆様へ地域情報を提供し地域の文化・伝統を継承や発展につなげられればと思います。公民館報で地域と人、人と人が「つながる」ことができよう努力してまいりますので、よろしくお願ひします。



#### 【前列右から】

南大井支館 柳沼いつ子  
北大井支館 小山 誠治  
大里支館 土屋 薫  
西小諸支館 遠藤 武司

#### 【後列右から】

三岡支館 遠山 厚子  
川辺支館 山浦 民子  
中央支館 山中 祐子  
中央支館 中島 正和